

市役所職員による

市民まちづくり活動しポート

Vol. 1

市役所の若手職員が研修の一環として、市民団体等のまちづくり活動取材しました。

取材に参加した職員は、採用後1年から2年目の若手職員23人。3人から4人ずつの6グループに分かれ、市内で活動する市民団体を密着取材！

市民のみなさんが、自らの取り組みと熱意で、より良い地域を創ろうとする活動に触れ、市役所若手職員が得た情報や学んだこと、感じたことをお伝えします！

大野木長寿村まちづくり会社

平成23年9月、「大野木長寿村まちづくり会社」が結成されました。高齢化の進む大野木の問題・課題解決に向け、2年間の話し合いを経て「大野木の高齢者は大野木で支援していく」という方針で活動されています。「まちづくり会社」となっていますが、営利だけを目的とした団体ではありません。お年寄りの困り事を解決する有償ボランティアの団体です。

●代表：吉田善次さん、西秋清志さん、清水清市さん

●メンバー：49人

●活動日：依頼があれば随時

毎週土曜日たまり場

●活動地域：大野木区内

●事業内容

- ・訪問支援事業（屋敷手入れ・山仕事・パソコン・病院付添など高齢者の要請に応じて困りごとの解決支援）
- ・高齢者ビジネス事業
- ・たまり場食堂
- ・大野木特産物の開発
- ・中学生教育旅行（ホームステイ）受け入れ

社員のみなさんは活動を始めるに当たり、お年寄りの困りごと調査をされました。調査結果に対し「病院や買い物がない」「毎日寂しい」と答えるお年寄りが一番多いこと（衝撃を受けたこと）です。

そこで、お年寄りの「よりどころ」を作るために、区内の空き家を社員総出で改装し、「たまり場」を整備されました。毎週土曜日に女性社員が作る食事を食べながら、交流できる場となっています。

社長の西秋さんは「高齢者の活動は7割できたら大成功。100%を目指さずに、自分達のできることから少しずつ」と話されていました。大野木のみなさんは自分の特技を地域づくりに活かし、多種多様な困りごとに対応されています。

みなさんも一度、地域の課題について見つめ直し、自分達に何ができるのかを話し合ってみませんか。若手職員の私たちも、地域の課題に対し、一緒に考え、それを解決していくお手伝いができるよう頑張っていきます。

市の「水源の里まいばら元気みらい条例」の施行に向けた議論をきっかけに取り組みがスタートしたんだよ



▲取材の様子



▲たまり場の様子



▲たまり場食堂での昼食



▲代表の西秋さん(左)と清水さん

リポーター

政策調整課	箕浦
林務課	丸本
市民窓口課	久保木
健康づくり課	原馬